

学校教育

市内小中学校の取り組み①

みんなで取り組む
“土曜学習室”

広報おたわら2月1日号でお知らせしましたとおり、市の各小中学校は全国学力・学習状況調査で好成績をおさめています。今後、各小中学校での学力向上のためのさまざまな取り組みを随時紹介していきたいと思えます。

今回は、中学校での学力向上の取り組みの一つ、「土曜学習室」を紹介します。

市内中学校9校中4校で実施

今年度は市内中学校4校で11月から2月までの4カ月間、土曜日の午前中の時間を使って土曜学習室を開催しました。高校進学を目指す3年生を対象とした3年間の復習です。開設科目、実施方法は4つの学校でそれぞれ違いますが、先生方がボランティアとして生徒たちの学習の補充を行いました。

4校で35名の先生と約180名の生徒が参加しました。

○実施校

- ・大田原中学校、若草中学校
- ・佐久山中学校、黒羽中学校

国際医療福祉大学の学生が
ボランティアリーダーで参加

4校の実施校の中、佐久山中学校

と黒羽中学校では国際医療福祉大学の学生がボランティアリーダーとして参加しました。学生ボランティアの派遣は、国際医療福祉大学ボランティアセンターが窓口でした。保健医療学部作業療法学科の3年生8名が2校に4名ずつ担当となり、2名ずつ隔週で参加しました。

佐久山中学校での土曜学習室

12月11日（土）に佐久山中学校に訪問した際の土曜学習室の様子を紹介いたします。

当日は校長先生がいらっしゃいました。校長先生は「できるかぎり子どもたちのがんばっている様子を見にくるんですよ。」とおっしゃっていました。当日は24名の3年生のうち16名が参加しました。

1時間目は、英語の復習問題に取り組んでいました。学習指導主任の先生が中心となり、男女1名ずつの大学生ボランティアが生徒たちの間に入って熱心に指導していました。

ここでは、先生と大学生が時々打ち合わせを行いながら協力して取り組んでいる様子でした。静かな環境で生徒たちは集中して学習に取り組んでいました。

大学生に話を聞くと、「学力差が大きいと感じます」、「基本的なところを教えてあげた方がいい子もいます」、「事前に予習してより分かりやすく教えられるように考えています」と真剣かつ前向きな意見をうかがえました。



大学生ボランティアによる熱心な指導（佐久山中学校）

大田原市内の各中学校では、土曜学習室以外にも授業外での学習の補充に取り組んでいます。昼休み、放課後、長期休業など、各学校の工夫された取り組みはさまざまです。生徒たちにとっては進学という現実的な目標もあります。自らの目標を実現する意味での学力の保障は、生徒の情緒面の安定にも大切な視点と言われています。

次号は、小学校での授業改善のさまざまな取り組みを紹介します。

問い合わせ

学校教育課学校教育係

TEL (98) 71113

第60期王将戦七番勝負
第3局

11月29日・10日

「第60期王将戦七番勝負」第3局が2月9日、10日の両日、市内のホテルで行われ、熱戦の末、124手で久保利明王将が挑戦者の豊島将之六段を破り、対戦成績を2勝1敗（2月10日現在）としました。

【前夜祭】

対局を前に8日、対局会場のホテルで前夜祭が行われ、将棋ファンや関係者など約170名が参加しました。対局者あいさつで久保王将は「いい戦いをして、いい棋譜を見てもらいたい」と、豊島六段は「集中してよい将棋を指せればと思います」とそれぞれ抱負を述べ、会場の熱心なファン一人ひとりと握手や記念写真などに笑顔で応じていました。

【対局見学・大盤解説会】

対局1日目の9日には、親園中学校の1、2年生約60名がプロ棋士同士の緊迫した対局を見学しました。

また、2日目の10日に行われた大盤解説会には、県内外から約70名の将棋ファンが会場に詰めかけ、対局の模様をモニターテレビで観戦しながら、大型将棋盤を使って行う立会人の中村修九段や飯島栄治七段などの解説に耳を傾けていました。



副立会人の飯島栄治七段による大盤解説

問い合わせ

王将戦開催実行委員会（政策推進課総合企画担当）

TEL (23) 13309